

松井一郎・大阪市長「大阪都構想 今もジレンマ」

4月6日に政界を引退する松井一郎・大阪市長のインタビューが、毎日新聞3月5日大阪市内版に掲載された。大阪市廃止・特別区設置の是非を問う住民投票について、「住民投票で負けたことは残念。でも府市一体で物事を動かした結果、市民から『今のままでいい』と評価を受けた。すごくジレンマがあるが、行政を担う政治家としてはすごい褒め言葉だ」と語る。

冗談じゃない。二度の住民投票で、大阪市民が大阪市存続を選択したのは、なぜ歴史ある大阪市を廃止するのか、廃止後の曖昧な「特別区」に不安を感じたからだ。大阪市民から「今のままでいい」と評価を受けたのではなく、コロナ禍で強引に進めた住民投票で厳しい批判を受けたのである。

写真は大阪市役所に吊るされた2020年11月1日住民投票を知らせる垂れ幕。投票結果は僅差ではあったが、反対が賛成を上回り、再び市民の良識により大阪市は存続すること



になった。記者会見にのぞむ松井市長・吉村知事。このあと松井市長は政治家「引退」を表明した。

大阪市廃止・特別区設置「法定協議会」、議会を傍聴してきたが、松井市長の発言や答弁には、政策や施策を都合よく解釈して、自らの主張を押し通すことが多かった。忘れもしないのが、2020年10月3日に新大阪駅近くのメルパルクホールで開催された「説明会」だ。運良く抽選に当たり、発言しようと会場中央に座った。まわりは維新の支持者らしき人ばかりのようで、松井・吉村二人の登壇に拍手が起きる異様な雰囲気であった。

説明会では、松井市長がスライドにより維新市政の「成果」を自慢げに延々と語った。そんな自慢・手柄話にも拍手が起る始末。イライラしながら質問の時間となり、ダメもとで手を挙げると、最初に指名された。このチャンスを逃すまいと、10分近く発言した。写真はNHKニュースで報じられたのを知人が撮ったものだ。



写真にもあるが、131年の歴史をもつ大阪市を廃止すると、伝統や文化が失われ、大阪の経済や市民生活に大きな影響をもたらす。大阪市廃止のデメリットをどう考えるかを聞いたが、役所の再編なので大阪の伝統や文化は失われないと声高に答えた。ほかにも驚くような発言が多かった。

松井インタビューを読んで、つい2020年秋の「騒動」を思い起こした

(2023年3月8日)